

揖斐川水源地域ビジョンの概要

水源地域の特性

- 急峻な地形と多雨な気候の下、豊かな自然環境を形成
- 縄文時代からの歴史・文化をもち、当時から北陸方面・近畿方面と交流。全村移転後の公有地化事業により、水源林としての保全や新たな交流が可能
- 教育、旅行、NPO、研究関係者等の専門家から水源地域の様々な活用について期待

ビジョン策定の背景・目的

- 日本一のダム湖と広大な水源林が織りなす「水と森の自然博物館」が出現
- ダムが担う新たな機能と水源地域の水と森を、流域全体の財産として捉え、広域の人達による保全と利活用を図っていくことを基本的な使命
- このような中で、水源地域の水と森を守る重要性への認識等を深めつつ、流域みんなの思いが相互に支え合う流域文化の創造に向けた取組を展開し、自立的かつ持続的な活性化を目指す

目 標 像

日本のどまん中を支える日本一の水と森が織りなす流域文化の創造

— みんなで守り、学び、やすらぐ、日本一元気な流域を目指して —

基本方針

- (1) 揖斐の防人・中部の水瓶としての上流域の水源環境を、みんなで守り育てる
- (2) 自然の叡智や風土など水源地域そのものを「水と森の自然博物館」として、学び、やすらぐ
- (3) 流域ぐるみで協働し、流域文化の創造と展開を図る

取組方策

- (1) 日本のどまん中を支える大切な自然環境の保全



- (2) 日本一の水と森に感謝し、学び、やすらぐ場として活用



- (3) 広域で継続的な交流・連携の推進



- (4) 水源地域の魅力を活用した産業の振興

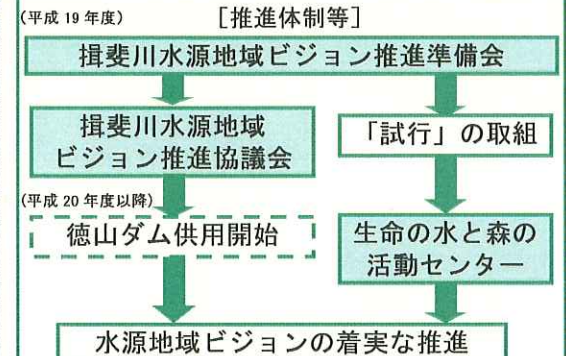


- (5) みんなが支え、みんなを支えるための取組の推進



推進方策

- (1) 徳山ダムに係る上下流の関係者が連携しながら取り組む
- (2) 地域住民グループやNPO 法人等の推進の担い手を育成する
- (3) 実施可能なものから順次、ビジョンの実現に向けた取組を進める



I. 揖斐川水源地域の特性

(1) 自然条件及び社会条件

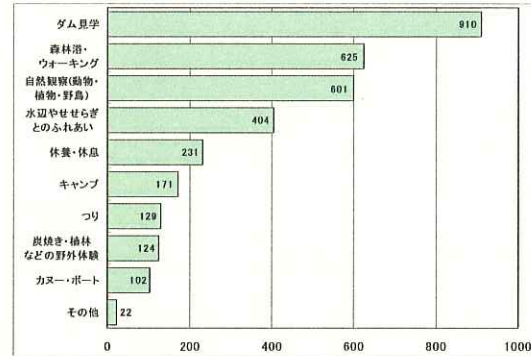
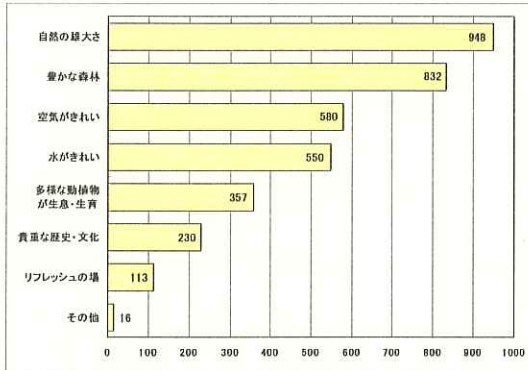
- 「揖斐川水源地域」の核となる徳山ダム上流域は、1,200m級の山々に囲まれた狭小なV字型の地形を形成し、太平洋側の気候と日本海側の気候を併せもち、多い年で年間3,000mmの降水量。また、多雨の条件の下で、広葉樹二次林が広範に発達しており、植物種約1,800種、動物種約3,200種からなる豊かな生態系を形成
- 水源地域は、谷汲山華厳寺をはじめとする歴史文化資源や自然資源が点在。また、豊かな森林と密接に関わった生活様式をはじめ、古くは縄文時代から東西、南北との結合点となっていた旧徳山村の歴史・文化をもつほか、徳山ダム上流域254km²は、全村移転の後、岐阜県及び揖斐川町が取り組む徳山ダム上流域の公有地化事業により、豊かな自然環境をもつ水源林として保全され、徳山ダムと併せて新たな交流の拠点としても期待



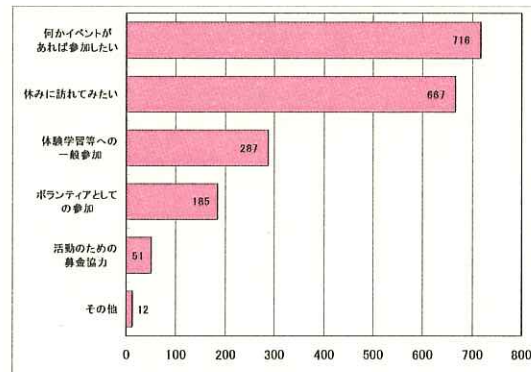
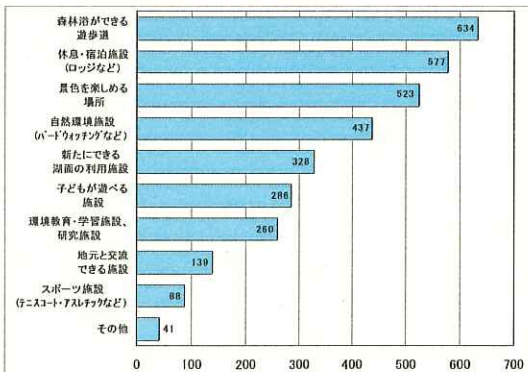
(2) 徳山ダム上流域への期待

■アンケート結果の概要

Q1. 揖斐川上流域の魅力についてどのようなイメージをお持ちですか。 Q2. 揖斐川上流域を訪れるとしたら何がしたいですか。



Q3. どのような施設があれば、より魅力的になるとおもいますか。 Q4. どのような活動であれば参加しても良いとおもいますか。



注) 1) アンケート回答数=1,413

2) 徳山ダムシンポジウム、木曾川三川連合水防演習、徳山ダムふるさと湖底コンサート、水道週間イベント、エコ市、徳山ダム工事見学の集い、建設技術フェア2006in中部で実施したアンケート調査結果である。

■専門家の主な意見

〔学校教育関係〕

○総合学習への活用にあたっては、下流市町は取り組みやすい。具体的なプログラム等ができれば検討できる。名古屋からは時間的な制約があり、宿泊での行程とする必要がある。また、生徒の関心を維持するため、体験型(例えば、木工、カヌーなど)や人との交流(旧徳山住民やダム専門家など)を組み合わせる必要がある。

〔旅行関係〕

○旅行のツアーとしては、イベントとの組合せや、ダムや水源地域の水と森を対象とした学習(例えば「親子」)・社会見学という切り口が有効ではないか。清潔なトイレやおいしい食事などは事業化の重要な条件となる。

〔NPO等〕

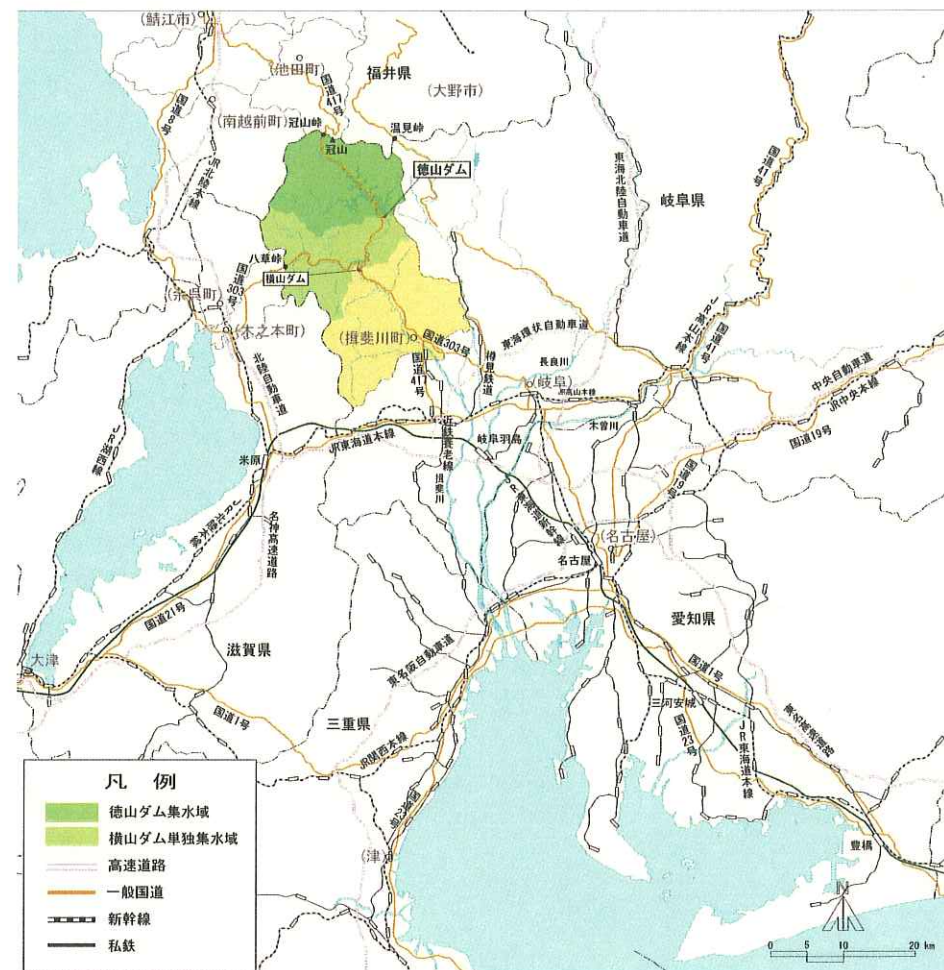
○徳山ダム上流域についてはNPOとしても関心をもっており、どのような活動に関わって欲しいのか具体的に提案するとともに、インターネット等で活動内容等の情報を発信して欲しい。

〔研究関係〕

○中部圏91大学・246学部に研究フィールドとしての活用についてアンケート調査を実施し、宿泊施設や簡易な作業室等があれば、「関心がある」とする回答が30大学・40学部・66研究室あり、研究フィールドとしての活用の可能性も認められる。

Ⅱ. ビジョンの背景と目的

- 徳山ダムは、「揖斐^{さきもり}の防人」として揖斐川流域47万住民の生活を脅かす洪水の被害を軽減し、「中部の水瓶」として揖斐川の豊かな恵みを、利水や発電などに有効に活用するダム。また、清らかな水の流れを守るための目的も併せもつ多目的ダムであり、完成すれば貯水量日本一のダム
- これらは、将来の木曾川水系連絡導水路と一体となって、中部圏に広がる流域にとって、「生命」「暮らし」「産業」を支える骨格
- 旧徳山村住民をはじめ、広域の人達が主役として関わる、日本一大きなダム湖と広大な水源林が織りなす「水と森の自然博物館」として、「日本一の水と森」からなる活動の舞台が出現
- ビジョンでは、ダムが担う新たな機能と旧徳山村の歴史と生活が培ってきた水と森を、流域全体の財産として捉え、水源地域だけでなく、治水・利水の恩恵が及ぶ広域の人達が参画し、その保全と利活用を図っていくことを基本的な使命
- また、福井県、滋賀県等の周辺地域、更には日本全体という広域的な視点も踏まえ、多くの人たちの交流と連携を促進しながら、徳山ダムの大切さや水と森を守る重要性への認識や、旧徳山村民466世帯への感謝の気持ちの下、流域みんなの思いが相互に支え合う流域文化の創造に向けた取組を展開し、水源地域の自立的かつ持続的な活性化を図っていくことを目指す



Ⅲ. ビジョンの目標像・基本方針と取組方策

揖斐川水源地域の目標像

日本のどまん中を支える日本一の水と森が織りなす流域文化の創造

－みんなで守り、学び、やすく、日本一元気な流域を目指して－

目標像を実現するための3つの基本方針

- 揖斐川の防人・中部の水瓶としての上流域の環境を、みんなで守り育てる
- 自然の叡智や風土など水源地域そのものを「水と森の自然博物館」として、学び、やすく
- 流域ぐるみで協働し、流域文化の創造と展開を図る

基本方針を踏まえた5つの取組方策

主要な中核プロジェクト

①日本のどまん中を支える大切な自然環境の保全



水環境の保全

ダム機能保全のための森林の保全整備



自然生態系の保全

②日本一の水と森に感謝し、学び、やすく場として活用



学習の場の提供

研修の場の提供



研究の場の提供

健康とやすらぎの場の提供

③広域で継続的な交流・連携の推進



活動を通じた上下流交流



教育交流の推進

④水源地域の魅力を活用した産業の振興



楽しめる場の提供



観光振興

⑤みんなが支え、みんなを支えるための取組の推進



情報発信



人材育成

※上下流が一体となって、目標像を効果的に実現できる取組を『中核プロジェクト』と位置付け、段階的に推進

※取組は平成19年度は推進準備会が試行し、平成20年度以降は活動センターで実施可能なものから順次、取組を具体化

IV. ビジョンの推進方策

1 推進方針

- (1) 徳山ダムに係る上下流の関係者が連携しながら取り組む
- (2) 地域住民グループやNPO法人等の推進の担い手を育成する
- (3) 実施可能なものから順次、ビジョンの実現に向けた取組を進める

2 推進体制の整備

(1) 推進協議会による取組の推進

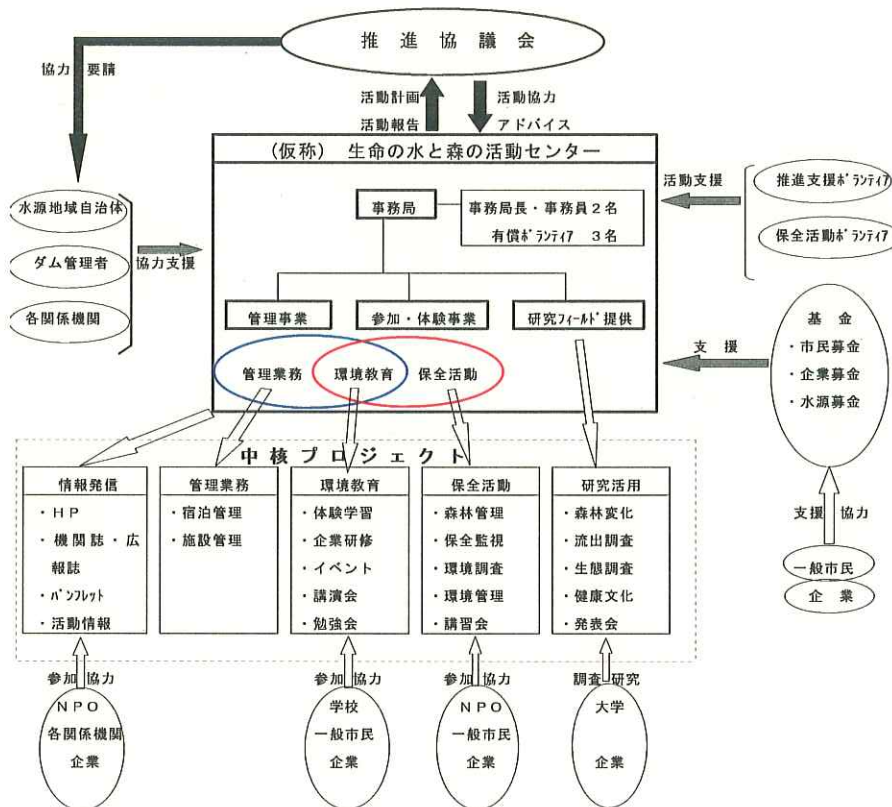
- ビジョンに掲げる取組方策を着実かつ効率的に推進していくため、「揖斐川水源地域ビジョン推進協議会（仮称）」を、平成19年度の年度当初を目途に設立
- 保全対策など、必要がある場合は、保全対策部会（仮称）等の特定の分野を担う部会を協議会の下に設置
- 推進協議会での議論の基礎として実質的な協議・調整の役割を果たすため、協議会に幹事会（担当者レベル）を置く

(2) 新たな推進組織による取組の推進

- 取組方策に位置づけた施策のうち、上下流が連携して取り組む「中核プロジェクト」の推進を担う組織として「生命の水と森の活動センター（仮称）」を設立

3 留意事項

- (1) 「推進準備会」による推進
- (2) 担い手の育成
- (3) ダム完成前からの取組
- (4) ビジョンのフォローアップ



〔ビジョンの推進体制のイメージ〕

■参考(2)：「揖斐川水源地域ビジョン策定会議」委員名簿

(敬称略／()は前任者)

【学識等委員】

高木 不折 名古屋大学 名誉教授 座長
 安藤 辰夫 自然学総合研究所 副所長
 葛葉 泰久 三重大学生物資源学部 教授
 下垣 真希 ソプラノ歌手・名城大学大学院 講師
 重網 伯明 シルバー総合研究所 理事
 戸松 修 岐阜大学応用生物科学部 教授
 中村 浩志 信州大学教育学部 教授
 水尾 衣里 名城大学人間学部 助教授
 佐藤 正孝 名古屋女子大学 名誉教授 (2006年4月辞退)

【産業等委員】

大野 睦彦 社団法人中部経済連合会 常務理事
 森 泰朗 揖斐郡森林組合 組合長
 (田中 正敏)
 三輪 幸恵 新)財団法人いびがわ 事務局長
 旧)財団法人ふじはし 理事長
 渡辺 信行 NPO 揖斐自然環境レンジャー 理事長

【行政等委員】

小川 敏 大垣市 市長
 渡邊 俊司 愛知県地域振興部 部長
 村林 守 三重県政策部 部長
 (浦中 素史 三重県地域振興部 部長)
 遠山 周二 名古屋市上下水道局 技術本部長
 加藤 元之 中部森林管理局岐阜森林管理署 署長

【事務局委員】

細見 寛 中部地方整備局河川部 部長
 棚瀬 直美 岐阜県県土整備部 部長
 (奥田 邦夫)
 宗宮 孝生 揖斐川町 町長
 河田 直美 独立行政法人水資源機構中部支社 支社長
 (井手 義博)